

サニックスグループとは



サニックスグループの事業領域
ホールディングス体制移行について
絵で見るサニックスグループ
主な事業のご紹介
数字で見るサニックスグループ
サニックスグループの歩み

次世代へ快適な環境を 積み重ねてきた実績をベースに、 サニックスグループの挑戦は続きます。

サニックスグループの事業領域

エネルギー領域

「環境負荷の低いエネルギー」が
当たり前の社会へ

自家消費型、第三者所有型など、
太陽光発電システム導入を
最適なかたちでご提案。
事業者の脱炭素推進を
サポートします。



資源循環領域

「捨てない」のが
当たり前の社会へ

廃棄物をエネルギー資源として
再生・再利用するリサイクルシステムを
研究開発・運営。
資源循環型社会実現に貢献します。



住環境領域

「快適な住環境を次世代へつなぐ」のが
当たり前の社会へ

戸建住宅やビル・マンションの
メンテナンスを中心に、
衛生管理や災害対策をサポート。
世代を超えて受け継がれる
住まい、建物を守ります。



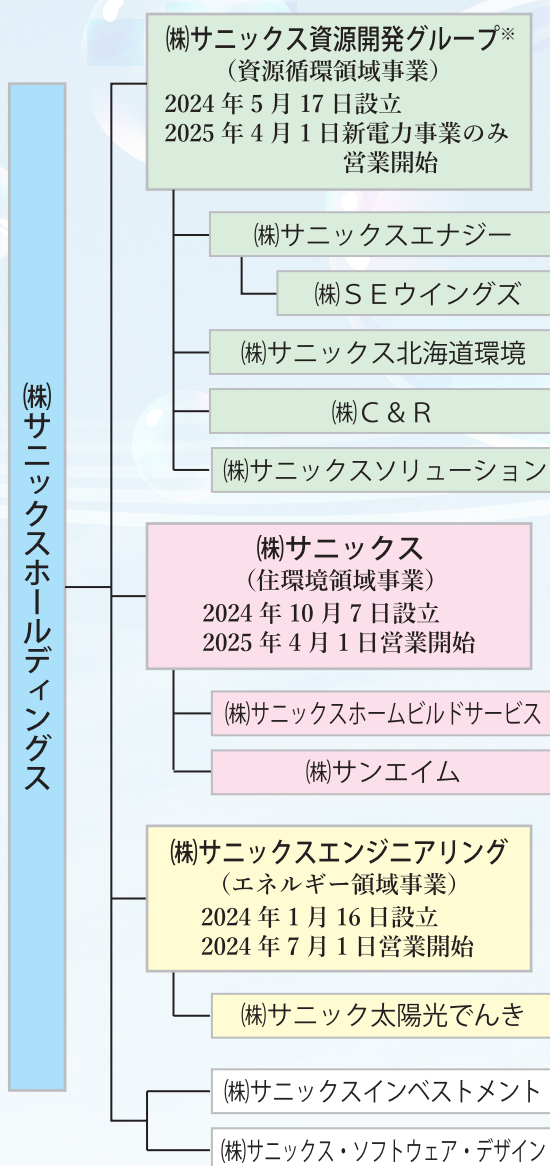
2025年4月1日、当社グループは、 ホールディングス体制に移行しました。

サニックスグループは、2025年4月1日、ホールディングス体制に移行しました。各事業部門が会社として独立し、より専門性を高めながらお客様のニーズにお応えし、成長を図ります。

なお、当社（従来の株式会社サニックス）は、親会社として、株式会社サニックスホールディングスへと商号を変更しました。体制変更後（右図）の株式会社サニックスは、親会社の社名を引き継いだ住環境事業を担う子会社です。

また、株式会社資源開発グループのうち、産業廃棄物の処理・リサイクル事業（環境資源開発事業）およびその配下の子会社については、2025年10月1日に、右記の体制に移行予定です（2025年4月1日には、新電力事業のみ営業開始）。

サニックスホールディングス体制図



※(株)サニックス資源開発グループおよびその配下の子会社については、2025年10月1日に上記体制に移行予定。

絵で見るサニックスグループ

次世代へ快適な環境を。人が暮らし、集う場所に、サニックス。

サニックスグループは、「環境」と「エネルギー」の仕事を通じて、地球環境を守りながら、人が快適に暮らせる社会づくりに取り組んでいます。



廃プラスチックリサイクル & 発電

廃プラスチックを燃料に。
世界にも類を見ない発電所で、
CO₂フリーエネルギーを生成。

P11
P36

各種施設の設備保全 & 衛生管理

ビル・マンションの設備保全から、
食品工場、飲食店、ホテル、病院等
の衛生管理まで、サポート。

P32

廃液の浄化 & リサイクル

国内最大級の処理施設で、廃液を
浄化処理。脱水汚泥や油分の燃料
化リサイクルも推進。

P36

太陽光発電（住宅用・事業用）

調達から販売、施工、メンテナンス
までの一貫サポートで、
国内有数の設置実績。

P32
P34

CSR でスポーツ・文化国際交流

次世代の世界平和にもつながる、
ユース世代のスポーツを通じた
国際交流等の実施を支援。

P47

一般住宅の維持・管理

トータルメンテナンスで、住宅の
寿命を伸ばす。50 年以上にわたる、
シロアリ防除実績は 80 万軒超。

P32

電力小売

太陽光発電事業とのシナジー効果
により、幅広いサービスの提供を
可能に。

P34

主な事業のご紹介

住環境領域

■ ホーム・サニテーション(HS)事業 【戸建住宅向けサービス】

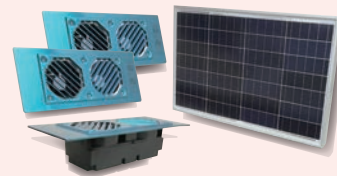
シロアリ防除システム

シロアリの習性を熟知したスタッフが、予防から駆除まで、適切に対処。豊富な経験と実績で培われた専門技術とノウハウ、万全のアフターサービスにより、大切なマイホームをシロアリの被害から守ります。



床下・天井裏換気システム

太陽光を利用した床下・天井裏換気扇が、床下・天井裏の湿気を追い出し、風の通り道をつくります。換気効果を高める拡散ファンや床下調湿材もとりそろえ、心地よい暮らしを実現するとともに、住まいの耐久性を高めます。商用電源タイプもあります。



基礎補修工事

基礎コンクリート表面に、アラミド繊維シートを樹脂で貼り付け、繊維強化プラスチック(FRP)を形成することで、基礎のひび割れを補修するとともに、劣化進行の抑制に寄与します。



家屋補強システム

床下、天井裏の主要結合部を金物で補強することにより、家屋の耐震性・耐久性を向上させるサニックス独自のシステム。大掛かりな外壁工事を行わず、工期短縮を実現しました。



住宅リフォーム

水周りの改善やバリアフリー化、外壁・屋根・クロス等のリフレッシュ、耐震改修工事など、ライフスタイルやご要望に合わせた快適リフォームをご提供します。

■ ソーラー・エンジニアリング(SE)事業 【戸建住宅・小規模建物向け太陽光発電】

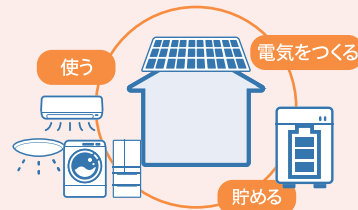
太陽光発電システム

太陽光発電の普及を目指して、できるだけ価格を抑えて提供し、環境にも家計にもやさしい生活を実現します。



蓄電システム

自家消費型太陽光発電のニーズが高まるなか、蓄電池の導入による電気の柔軟な使い方をご提案しています。



■ エスタブリッシュメント・サニテーション(ES)事業 【法人・事業主向けサービス】

給排水設備の保全対策

給排水設備メンテナンスの効率的な一元管理を实践。主力商品である防錆装置などにより、配管内のサビの発生・進行抑制による配管の長寿命化や、スケール・油污れの除去・付着抑制によるトラブルの解決を図ります。

マイナス帯電水生成装置(防錆装置)



内視鏡による給排水管内部の検査

有害生物の防除



専門技術により、ゴキブリやダニ、ハエ、カ、ネズミなどの害虫・害獣防除、害鳥侵入防止施工を行い、病原菌の媒体となる有害生物をシャットアウトします。

害虫防除施工

HACCPに沿った衛生管理サポート

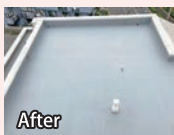
飲食店や食品工場など、食品を扱う事業者には、HACCP(衛生管理手法)に沿った衛生管理が義務付けられています。専門的視点で、衛生管理計画の作成から運用までサポート。定期的な衛生点検および、その結果に基づく改善指導も行います。



ATP拭き取り検査(清浄度の確認)

ビル・マンションのメンテナンス

水回りの衛生管理、屋上の防水処理、外壁の塗装・洗浄・補修など、トータルに管理します。



エネルギー領域

■ 法人向け太陽光発電(PV)事業

太陽光発電システム

工場の屋根やビルの屋上等の有効利用を促進。自家消費型システムを中心に、太陽光発電による環境経営、コスト(電気代)削減、災害対策、資産管理をお手伝い。ご提案から設計、施工、アフターメンテナンスまで、トータルにサポートします。



■ 新電力事業

電力小売

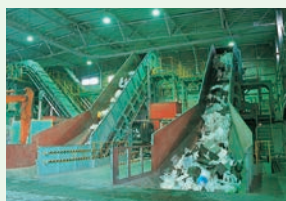
2001年に特定規模電気事業者、2015年に経済産業省に登録小売電気事業者として登録(登録番号:A0057)。各種料金プランを取りそろえ、ユーザーのニーズにお応えしています。

資源循環領域

■ 環境資源開発事業(廃棄物リサイクル)

廃プラスチックの燃料化

産業廃棄物系プラスチックの燃料化を目的とした工場を全国各地に15工場展開しています(プラスチック資源開発工場)。廃プラスチックを細かく破碎することにより、石油・石炭などの代替燃料として活用しています。



プラスチック資源開発工場

廃液の処理・リサイクル

飲食店や食品工場などから排出される廃液を一度に大量に受け入れられる体制を整えています(船舶での受け入れも可能)。一連の水処理工程により、高濃度の汚濁成分を99%以上除去する能力を有しています。また廃液に含まれる油分や汚泥の再生・再利用も推進しています。



ひびき工場(廃液処理工場)

資源循環型発電システム

プラスチック資源開発工場で加工、燃料化したプラスチックを発電施設のエネルギーとして利用する資源循環型発電システム。石炭と比べて発熱量が高く、CO₂排出量や焼却灰発生量が少ないなど、環境負荷も低く、付加価値が高い電気エネルギーの供給が可能です。非化石電源として非化石証書も発行されます。



サニックスエナジー 苫小牧発電所



最終処分場(株式会社C&R)

廃棄業務一元管理システム

廃棄業務を「見える化」するシステムの提供により、適正で効率的な業務遂行をサポート。排出事業者向け、収集運搬業者向け、中間処理業者向けの3システムをラインナップしています。

～廃プラスチックの回収・燃料化から発電まで～
資源循環型発電システム

廃プラスチックの有効利用を促進し、
循環型社会の構築に貢献します。

化石燃料の消費を抑制

CO₂フリー電力による脱炭素社会への貢献

最終処分場の残余年数を延ばす

廃プラスチック
発生元より回収・運搬

資源開発工場にて破碎

回収した廃プラスチックを確認。
150mm以下に破碎します。

※徹底した管理体制で、有毒な
ダイオキシンを発生させる塩化
ビニールを含むものと、燃料と
なるプラスチックを分別します。



梱包・ラッピング

破碎したプラスチックを圧縮、
梱包しラッピングします。

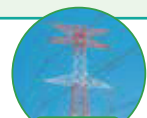
ストックヤードへ
燃料を運搬

プラスチック燃料を、ストックヤードへ運びます。

ストックヤードで
一時保管

発電所にて整粒加工

30mm程度に整粒加工し
発電用の燃料となります。



送電

プラスチック燃料1kgが、
電球(60W)1個を
約40時間点灯させる
電気になります。



エネルギーを生成

ボイラーに投入し発生した
高温高圧の蒸気で
蒸気タービンを回転させ
発電します。

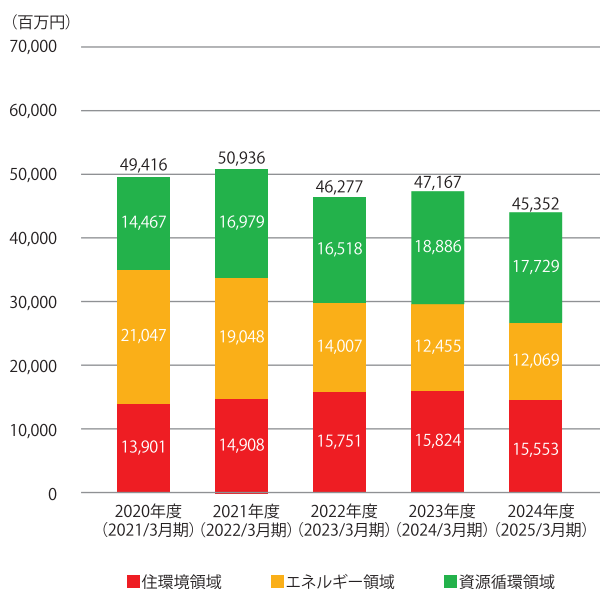
数字で見るサニックスグループ

今、環境問題への取り組みは、世界規模での重要課題として位置づけられています。サニックスグループは、長年にわたって、次世代につなぐ環境づくりに取り組んできた企業として、持続可能な社会の実現に寄与すべく、成長を図りながら、事業展開してまいりました。

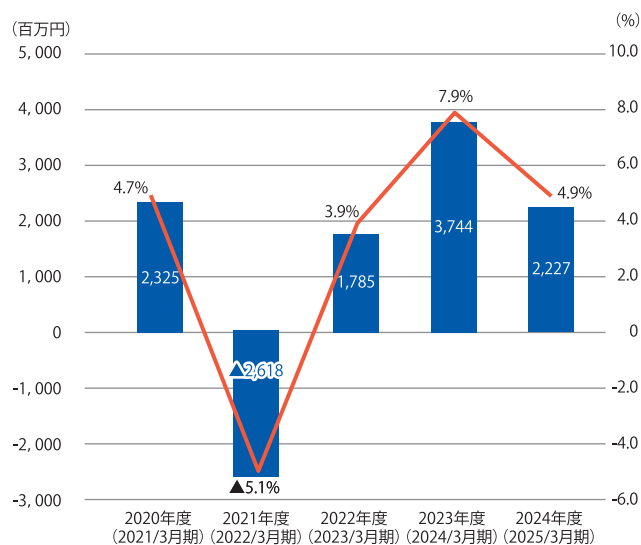
2024年度、わが国は、個人消費の回復やインバウンド需要の高まりによって、景気は緩やかな持ち直しの動きが見られました。しかしながら、不安定な国際情勢の中、円安の影響による原材料価格やエネルギー価格の高騰、物価の上昇が続くなど、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

当社グループは、時代のニーズに対応しながら、事業を通じた社会課題の解決を推進しています。

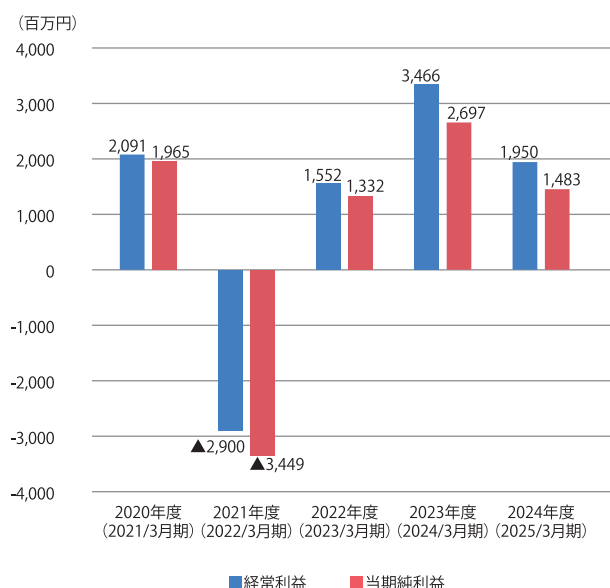
事業領域別売上高



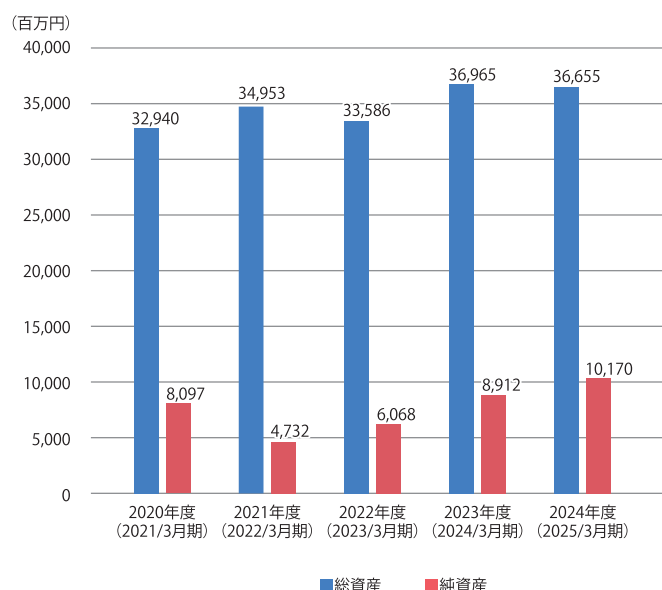
営業利益・営業利益率の推移



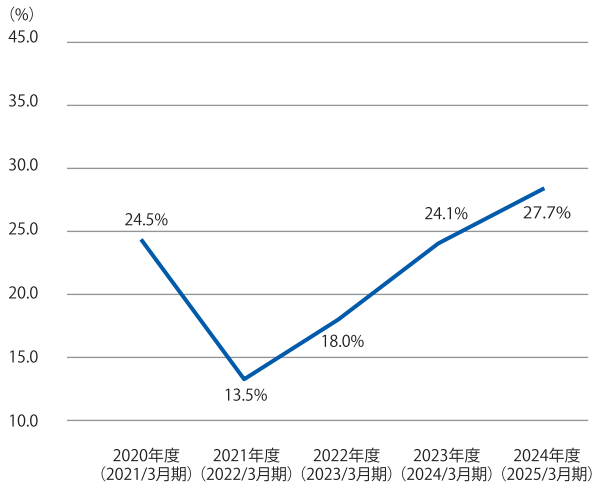
経常利益・当期純利益



総資産・純資産

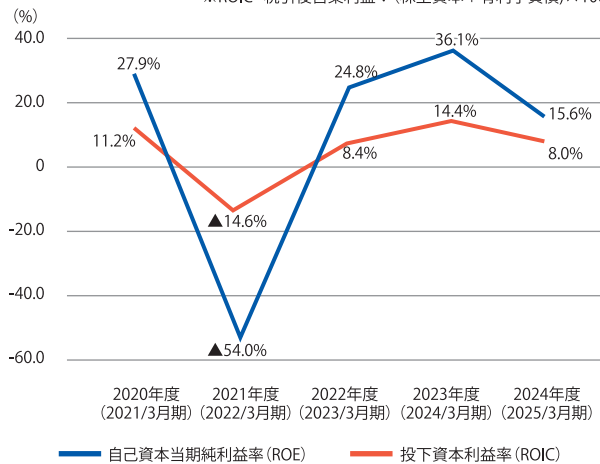


自己資本比率の推移

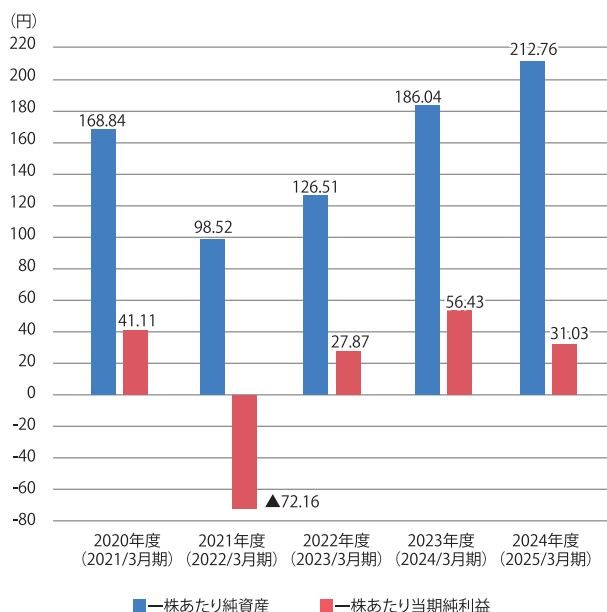


自己資本当期純利益率 (ROE) / 投下資本利益率 (ROIC※) の推移

※ROIC=税引後営業利益÷(株主資本+有利子負債)×100



一株あたり純資産・一株あたり当期純利益



主な事業の累計実績

(2025年3月末現在)



シロアリ消毒施工軒数
約 **840,000** 軒



ペストコントロール施工軒数
(事業所向け害虫・害獣防除)
約 **35,000** 軒



給排水管維持管理施工件数
(防錆機器設置等)
約 **40,000** 件



太陽光発電 販売・施工件数
(自社施工分のみ)
約 **51,000** 件

太陽光発電 販売出力
(卸販売含む)
約 **1,480,000** kW



プラスチック処理量
約 **6,500,000** t

苫小牧発電所 発電量
約 **5,500,000** MWh



廃液処理量
約 **2,700,000** t

サニックスグループの歩み

サニックスグループは、産業として確立したアメリカの環境衛生ビジネスに触れた宗政伸一（前社長）が、その必要性・将来性を確信し、創業したことに端を発します。シロアリ防除からスタートし、時代のニーズに応えるかたちで、産業廃棄物のリサイクル、太陽光発電事業と、業容を拡大。住宅から都市空間、地球環境へと、事業の対象領域を広げてきました。

私たちが追求する「持続可能な社会づくり」は、いまや、世界の共通認識として、重要視されています。企業理念「次世代へ快適な環境を」のもと、大きく広がるフィールドで、サニックスグループは、社会の課題解決を図りながら成長します。

事業規模 (2025年3月末日現在/連結)

売上高(2025年3月期)

453 億円

従業員数

2,054 人

拠点数

142 拠点

東京証券取引所
市場第一部上場

日本証券業協会に
株式を店頭登録

産業廃棄物
処理事業開始

CI導入でサニックス誕生
コーポレートスローガン
「FOR SANITARY AMENITY」
総合環境衛生管理企業へ

102億

売上高推移

創業

1975年度

1980

1985

1990

1995

2000

1975年 創業

1975年(昭和50年) 三洋消毒株式会社創業

シロアリが発生してから消毒するのが一般的だった業界において、「予防医学」の考え方を前面に打ち出し、潜在的需要を掘り起こしていった。



1978年(昭和53年) 設立(三洋消毒株式会社)

1981年(昭和56年) 法人向けの環境衛生部門を シロアリ部門と分離

1980年代 消毒業からの脱皮

1982年(昭和57年) 総合研修センター及び研究所開設

「不潔なところを清潔に、汚いところをきれいにする仕事だからこそ、高い使命感と専門知識が求められる」と、古くから社員教育に注力。

1987年(昭和62年) 株式会社サニックス発足

社名を変更し、快適な環境を創造する「トータルサニテーション企業」へ事業を再構築。

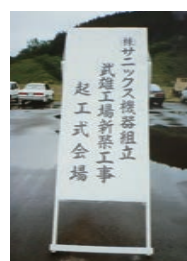


1989年(平成元年) 太陽電池を動力源とする床下換気扇 の発売を開始

1990年代 産業廃棄物処理で、地球環境を視野に

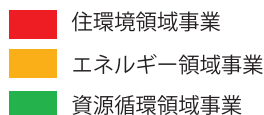
1991年(平成3年) 機器製造工場を開設(佐賀県武雄市)

お客様のニーズに応える製品づくりに向け、自社工場設置。

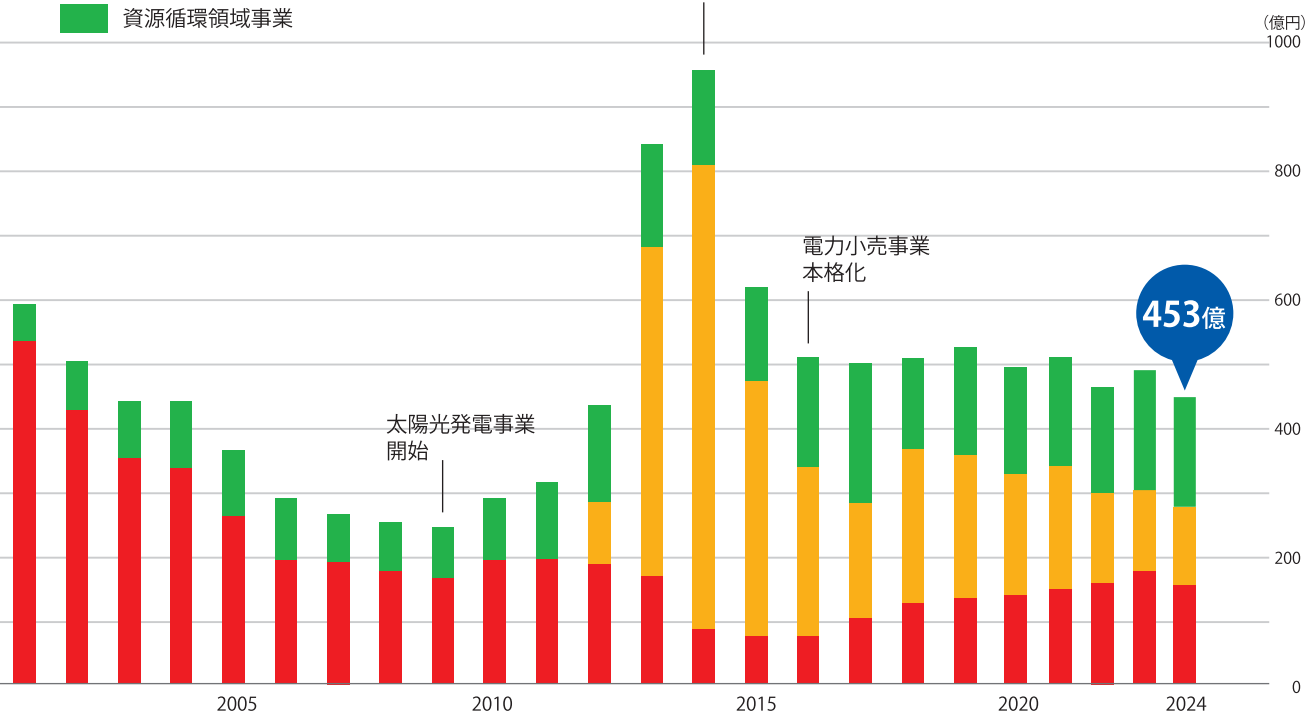


1994年(平成6年) 産業廃棄物処理業に進出

法人向けの衛生管理事業において、取引先のニーズをつかんだことをきっかけとして、処理工場を新設。「今後は、廃棄物を浄化する静脈産業が重要になる」。



コーポレートスローガンを
「for Energy for Environment」に変更。
「環境とエネルギー」の会社へ。



2000年代 資源循環型発電事業によりエネルギー分野参入

1998年(平成10年) 薬剤製造の武雄B工場設置

100%出資子会社(株)サンエイムが運営。

1999年(平成11年) 廃プラスチックの 燃料化事業開始

廃棄物の焼却処理を行う中で、プラスチックの燃焼カロリーの高さに注目。単純焼却・埋め立てされているプラスチックを燃料として再生する事業をスタート。



2000年(平成12年) 廃液処理事業開始



2001年(平成13年) サーマルリサイクル運営の (株)サニックスエナジー設立

廃プラスチックのリサイクル燃料による火力発電所の建設を開始。運営会社となる、100%出資子会社を設立。

特定規模電気事業者登録

電力事業参入を見据え、全国で8番目の登録。

2003年(平成15年) サニックスエナジー 苫小牧発電所竣工

廃プラスチック由来燃料による発電。以後、課題を一つずつクリアし、ノウハウを積んだ。



2009年(平成21年) 最終処分場運営の(株)ホクハイ・(株)C&Rを買収

廃プラスチックの燃料化から、発電、焼却灰処分まで。グループ内一貫体制が確立。

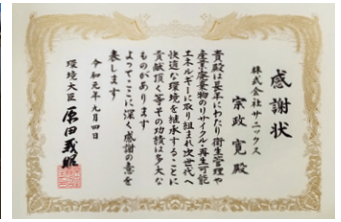
太陽光発電事業を開始

太陽光発電の普及拡大に向けて、「いいものをより安く」。

(次ページへ続く)

■環境大臣より感謝状授与

「長年にわたり、衛生管理や産業廃棄物のリサイクル、再生可能エネルギーの取り組み、次世代へ快適な環境を継承することに貢献してきた」として、2019年（令和元年）9月、環境大臣より感謝状を頂戴しました。



■有事における社会貢献活動

自然災害に代表されるような災害、事故の発生時には、サニックスグループのノウハウ・知見を活かした活動により、地域・社会に貢献しています（以下は、その一例です）。



阪神大震災時、防疫ボランティアを申請し、西宮市で避難所の防疫消毒を実施（1995年）。



ナホトカ号重油流出事故による重油処理に対し、海上保安庁より感謝状授与（1998年）。



口蹄疫の流行に際し、宮崎県都農町にて、通過車両等の殺菌施工を実施（2010年）。



東日本大震災に伴う岩手県盛岡市被災地支援施設建設プロジェクトに協賛し、大槌町の集会所に太陽光発電を提供（2011年）。



九州北部豪雨により被災した福岡県東峰村において、浸水住宅の床下泥土除去・防疫消毒等、復旧支援を実施（2017年）。



令和2年7月豪雨の災害を受けた小学校（大分県九重町）の床下殺菌消毒を実施（2021年）。

2010年代

太陽光発電事業が加わり、「環境・エネルギー」企業へ

2010年（平成22年）

㈱北海道サニックス環境を設立

㈱サニックス苫小牧工場（廃プラスチックの燃料化）を、子会社として分離。

ソーラーパネル製造・販売の子会社を上海市に設立

善日（上海）能源科技有限公司（100%出資子会社）。ソーラーパネルの自社生産を開始し、製造から販売、施工、メンテナンスまで、一貫体制を確立。



2014年（平成26年）

電力小売を行う、㈱S Eウイングズを設立

2015年（平成27年）

登録小売電気事業者登録

2016年（平成28年）

電力小売事業に本格参入

電力小売完全自由化を受け、㈱サニックス本体での電力小売事業を本格化。

2017年（平成29年）～

経産省のVPP構築実証事業に参画

「需要家側エネルギーリソースを活用したバーチャルパワープラント構築実証事業」に事業終了（2023年度）まで加わる。

2018年（平成30年）

廃液浄化処理事業において再生油（再生油Bio）製造事業を開始

当再生油は、2025年（令和7年）までに4件の公的機関の評価を受ける（北九州エコプレミアム、経済産業省産業技術環境局長賞など）。

2020年～

3事業でさらなる企業価値向上へ

2024年（令和6年）

「住環境」「資源循環」「エネルギー」の各事業部門の分社を目的に、子会社設立

㈱サニックスエンジニアリング、㈱サニックスホームビルドサービス、㈱サニックス資源開発グループ、㈱サニックスを順次設立。うち、㈱サニックスエンジニアリング、㈱サニックスホームビルドサービスは同年、営業開始。

2025年（令和7年）

ホールディングス体制移行

㈱サニックスホールディングスに商号変更。あわせて、子会社㈱サニックス資源開発グループ、㈱サニックスが営業開始。